

【主講師：基調講演】

基調講演①

「間違いを正すことに焦点を合わせず、聖書的な考え方を身に着けさせる教育への召し—申命記6章」
テッド・トリップ

成長を促す教育とは、子どもたちに聖書的な考え方を身に付けさせる教育です。子どもたちが、聖書に記された神の啓示に全人生を根付かせていけるよう指導していきます。成長を促す教育は、間違いを正すことには焦点を合わせていません。フォーカスすべきは、人生を聖書的に解釈し、それに応答していく方法を提供することです。

基調講演②

「壊れやすい人間関係：キリストの視点からの理解」
マージー・トリップ

今日、人間関係の崩壊を至る所で目にします。「見識がある」と思われた私たちの文化は、多くの家庭が結婚生活に失敗しているだけではありません。家庭は、子どもたちを育て保護するという、神が意図された使命から遠ざかり、傷を負っています。家庭でも社会でも、何かを築き上げるのではなく、破壊する関係となっています。キリストの体にあるクリスチャンの中でもノンクリスチャンの世界と同様に、壊れやすい人間的な交わりがあり、傷を広げています。私たちが人間関係で失敗するのは、関係を理解するために、神のことばに立ち返っていないためです。

このセッションでは、創造論の記述から明らかとなってくる愛の関係、コミュニケーション、神の目的について考えます。神の創造、人間の墮落、救い・贖いを見ながら、神がご自身の形に似せて人間を創られた、その完全なる設計・創造の意図をたどります。女性という立場（娘、姉妹、母親、友人、妻）から築き上げられる、この世での傷つきやすい関係は、イエス・キリストを通して築かれる神との関係を理解することで、劇的に導かれていきます。私たちはもはや何かを受けることを願う人ではなく、豊かに与える人になっていきます。それは、キリストにあって完全な者とされた

からです（ピリピ2章／コロサイ3章）。

基調講演③

「矯正手段としてのしつけ—コントロール・制約ではなく、神の真理の強調と聖書的なコミュニケーション」
テッド・トリップ

子どもたちが何か間違った行為をした時、矯正手段としてしつけが行われます。ガラテヤ人への手紙6章が示しているのは、聖書が教える種まきと刈り取りの原則です。親は、子どもの行動をコントロールしたり制約したりして、結果を得ようとすべきではありません。そうではなく、神のことばが持つ永続的な真実を強調していく方法を学んでいくべきです。箴言は、人生にまつわる真理を子どもたちに教え、聖書的なコミュニケーション方法を与えてくれます。

【主講師 分科会抄録】

分科会1

「家族とは？—あわれみ・贖い・恵みの体験コミュニティ」
テッド・トリップ

クリスチャン家族というのは、神の教えを学びつつ、神の栄光を表していく学びのコミュニティのような場とも言えます。また、子どもたちが他者と一緒に生活をしながら愛することを学んでいく、社会学の学習コミュニティとも言えるでしょう。さらに、キリストの愛と救い、贖いを学んでいく学習センターとも呼べます。罪を犯し、あるいは罪を犯される中で、親子が共に立ち、許し、許されていく、贖いの恵みを経験していく場なのです。

分科会2

「自由奔放な意思決定者ではなく、神の権威の下にある喜びの生活—エペソ6章」

テッド・トリップ

今日の社会では、権威とは圧倒的な力から生じるもの、もしくは本人の同意があって初めて生まれてくるものだと考えます。権威の本質について、

十分理解せず、ある人が権威を持つこと、あるいは他の人が誰かの権威の下にあることが良いことなのか、また適切なかどうか、よく分からない状況になりがちです。そうした中、親は無意識のうちに、子どもたちを、自由奔放で、何ものにも支配されない意思決定者に育て上げてしまいます。子どもたちは、誤った自由に欲望を抱き、誤った概念を持つようになっていきます。真の自由とは、神が定められた権威の下で喜びをもって生きることにあります。

分科会3

「行動の中心にある心を育てる－箴言4:23 「いのちの泉はこれ（心）からわく」

テッド・トリップ

箴言4章は「いのちの泉はこれ（心）からわく」と教え、ルカの福音書6章は「人の口は、心に満ちているものを話す」と語ります。行動が心から出てくるのであれば、その人の心の内をしっかりと育てなければ、聖書的な行動をとれないし、分析できません。この教えは、子どもたちが道に外れた行動を取る時、心が既に迷い出ていることが反映されているのだとの洞察と子どもの行動理解に役立ちます。では、どのように心を育てていくのか、このセッションで見つめていきます。

分科会4

「ティーンエイジャー：生きた信仰として福音に生きる」

テッド・トリップ

ティーンエイジャーとは、世代から世代へと信仰のバトンを渡していく時です。箴言1章では、ティーンエイジャーが持つべき3つの土台について語っています。すなわち、主への恐れを抱き、両親の言葉を心に刻み、悪しき者から離れることです。この年代の子どもたちを成長させる上で、聖書的で豊かなコミュニケーションは重要です。ティーンに入った子どもたちとのつながりを維持し、彼らを理解することに喜びを見出すことが、鍵となってきます。

分科会5

「子どもたちが真実の神の栄光を見るために」

テッド・トリップ

子どもたちは、礼拝する者たちです。真実に神を礼拝するかもしれないし、偶像を崇拝するかもしれない。彼らは礼拝する者として、自らの人生経験を霊的な目を通して眺めます。礼拝者である子どもたちは本来は、聖書の神に惹きつけられるように創られています。親の役目は、子どもたちが真実の神に引き付けられ続け、魅了され続けるように助け、導くことです。詩篇145篇は、次の世代である子どもたちに神の素晴らしき御業を知らせ、受け継がせていくようにと、私たちの世代に召命を与えています。

分科会1

「失望した時のために－神の働きへの理解と信頼」

マージー・トリップ

土曜の朝、あなたはとっても良い気分を目を覚まし、最高に肌触りの良いローブに身を包んでスリッパを履き、リビングに向かいます（子どもたちはまだ夢の中）。ところが、リビングの窓が一晩中開けっ放しになっており、新しく張り替えた美しい床が雨にぬれ、たわんでいるではありませんか！こんな時、真っ先に心に浮かぶ思いは何でしょうか。失望、自己嫌悪、怒り、落胆、心配…。

私たちが壊滅的な思いにさせ、神の愛と優しさに不信仰を抱かせる、人生を変えるほどの失望というものがあります。この分科会では、聖書がどのような観点から「期待すること」を見ているか学びます。神のみことばは、人生に起きるいかなる失望の中でも、どうすれば神を知り、受け入れ、愛することができるかを私たちに伝えていきます。失望してしまうと、期待しようとしてもうまくいきません。例えば、夫や妻、友人があなたを失望させます。あるいは、車の鍵を紛失したり、肉を焦がしたり、涙に暮れる悲慘な出来事を経験したり、私たちが無力にし、絶望に追いやり、不信仰を抱かせる経験をしたりします。

しかし、助けがあります。人生で起こるあらゆる失望の中で、主権者なる父なる神は、ご自身の

栄光と私たちの益のために働いてくださっていることを理解し、この神に信頼することです。

分科会 2

「箴言 31 章に登場する女性」

マージー・トリップ

何年も前に、箴言 31 章の聖句が書かれたトラクトを受け取ったことがあります。「素晴らしい女性をたたえて」と書かれていました。10 節には「有能な妻を見つけるのはどれほど難しいか」とありました。それで私はトラクトの最後に、こう書き記したのです。「これは実在する一人の女性のこと？それとも女性の特徴を集めたもの？それぞれを見てみよう。こんなマージーを達成できる？それって現実的？」。私はこのトラクトのタイトルと聖句に、非常に衝撃を受けました。私は、神が望んでいるような自分になりたいのです。しかし、どうすれば、それを達成できるのでしょうか！

それから何年もの間、私はこの聖句について考え、祈り、勉強しました。そして、神の御霊の働きによって成長し、私が最初に抱いた質問とは異なる方法でこの聖句を理解しようとしていました。尋ねるべきことは、「これは実在する一人の女性なのか、はたまた女性の特徴を集めたものなのか」ということではありませんでした。そうではなく、「箴言 31 章で神は一体、何をたたえているのか」ということだったのです。10 節の正確な訳は、「高潔な性格の妻をだれが見つけることができよう」です。この美しい聖句の中で、神は崇高な性格を賛美しています。たくましさでもなく、賢さでもありません。敬虔な「性格」が称賛されているのであり、女性の「生産性」ではないのです！女性はよく、自分の人となりではなく、何をしたかで自分の成功を判断してしまいます。しかし、箴言 31 章で語られている女性像は、人格に根差したものです。何と安心することでしょう！内側の性質が、外側の行動を左右します。私の手の業は、心の中にあるものを表しているゆえに重要なのです。

この分科会ではこの前提に立って、箴言 31 章に表されている多くの人格を学んでいきます。これらの人格は、他の多くの聖書箇所ですべて具体化され、皆さんの人生で生まれ、一層与えられようとして

いる実在可能な人格です。

分科会 3

「全体像 - 本当の性質」

マージー・トリップ

幸福感というものは、その日が「良い日」だったか、「悪い日」だったかでまとめられるものでしょうか。何があれば「良い日」で、何があれば「悪い日」なのか。悲しいことに多くの場合、私たちを取り巻く環境が、私たちの心や気分、精神的な温度に影響を与えています。

どのような状況かに関係なく「良い」日を過ごすには、全体像を把握する必要があります！それは、神のみ言葉の中にあります。そこには豊かで深みのある全体像があり、神の主権の中で守られつつ、人生における異なるピースを見ることができます。私たちは喜びと希望を持ちながら、どのような状況にあっても、堅く、そして力強く強く立つことのできる、堅固な地面を見つけるでしょう！

この分科会で核となるみ言葉は、詩篇 73 篇、第 2 コリント 2:4、その他の力強い聖句です。目には見えないけれども神が住んでおられる霊的な世界、そして私たちが霊的な目で見えて理解するようにと神が招いておられる霊的現実について、神のみ言葉は実例を提供してくれます。

分科会 4

「子育て - 母の役割」

マージー・トリップ

この分科会では、子どもの心を「養う」時に果たすべき母の役割を考えていきます。土台とする考えは、私の夫が書いた『聖書が教える親と子のコミュニケーション』と、私たち夫婦の共著『子どもの心を教える』です。多くの母親が、一人で何役もの役割を果たそうと頑張っています。家族の中で自分だけがクリスチャンという女性も多いでしょう。そういう家庭では、亭主関白な夫が聖書的でない生き方を決めてしまうか、あるいは、夫はほとんど家庭を顧みず、家庭のことは妻任せ、のどちらかではないでしょうか。多くの女性が口

にするのは、夫が霊的な生活を送っておらず、霊的な頭としての役割を妻に任せているということです。こうした女性たちは多くの疑問を抱えています。聖書が教える子育て、母の役割とは何か、神のみことばから考えていきましょう。

分科会5

「神のこころにかなう女性となる」

マージー・トリップ

私たちの社会は、何かに「なろう」、誰かに「なろう」として、心を奪われがちです。私たちクリスチャン女性は、自分がキリストにあって「何者であるか」を確かに知っています。「神のこころにかなう女性になる」ということは、キリストがしてくださったことに基づきます。私たちに何ができるか、どんな人になろうとしているかは、関係ありません。「女性らしさ」の根底にあるのは、私がキリストにあって誰であるかということです。

私たちはクリスチャン女性として、キリストの中にある者だという確信を持っています。

私たちがキリストのうちにある者、あるいはキリストにあって安らぐ者となったのは、キリストの死の延長にあります。それはキリストを信じた私たち一人ひとりに与えられた特別な立場です。キリストが私たちのすべての源です。もしキリストの働きが救いに留まっていたなら、すなわち天国へ行くだけで終わっていたなら、私たちは自分でできるだけ最善を尽くす以外にできることはなく、希望がないでしょう。しかし、主をたたえます。キリストの働きは完全です。私たちは、キリストにあって完成に向かっていくのです。罪がもたらした死から解放されるだけでなく、キリストにあって完全な者とされるのです。ピリピ人への手紙3章は、すべてを要約しています。「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです」

この分科会では、この世の考え方と霊的な（クリスチャン的な）考え方を対比させます。神のみ言葉は、この世が私たちの心、家、そして教会に忍びこませた、女性の役割に対する考え方を明確

にし、拒絶するようにとチャレンジしています。

たとえ代価を払っても、私たちはクリスチャンとして聖書に立つ考え方を持っていなければなりません。神に愛され、知られ、女性という役割をもって創られた神の子として、私たちはこの世が意図するものを拒むべきです。そうすることで、守られ、進むべき道を見つけるでしょう（第一ペテロ1・13～16）。

【分科会各講師 抄録】

■誰でもバイリンガルに育つ！バイリンガル養成ワクワク大作戦－GrapeSEED 効果的活用法

稲葉・伊東（GrapeSEED）

この20年、バイリンガルを目指した日本のホームスクーラーたち、トリリンガルが普通の丸森の伝道者たちの姿を見ながら、「学習環境」次第で、バイリンガル養成が可能であることを実感しています。我が家でも、現在、取り組んでいます。日本のホームスクーラー（正確にはチア・メンバー）のためには、具体的な教材として日本で150校、世界18ヶ国で約900校以上が採用する注目の英語カリキュラム「GrapeSEED」が、与えられています。その特徴は、「文法は後ほど…話す自信と意欲・実力をつける」、「よく使うことばを繰り返し教える（英語教育環境の提供）」、「音から入る英語脳の形成」、「話す英語で終わらない、総合的な英語力の獲得」。こうした教材の個人利用は、世界で唯一、チア・メンバーにだけ許されたことです。当分科会では、英語・日本語・ヒンディー語とトリリンガルの伊東エリヤさん（GrapeCity 社専務）と共に、バイリンガル教育によって日本・世界でキリストの栄光を現していく子育て・方法を探ります。

■「チャーチ&ホームスクーリング－必ず聞かれる20の質問」

稲葉 寛夫

「チャーチ&ホームスクーリングって何？」そんな質問への答えから始めて、全体像をつかめるセ

ッション。スタート済みの皆さんには、知人・友人へのプレゼンテーションへの参考に。「社会性は？」「微分、積分ができなくても教えられる？」「聖書が教える教育法は？」「しつけは？」「大学進学、就職は？」「ホームスクーリング・マインドのチャートスクールって？」「週2時間からできるチャート&ホームスクーリングって？」。この20年の全国各地でのセミナーで多かったQ & Aをベースに8時間コースを50分に短縮した、一度は必修のコース！

■「普通のサラリーマン家庭」でもホームスクールはできる？

今井 一穂&真理子

夫は仕事で忙しい。昼間は妻一人。本当にホームスクールをやっていけるのか？はい、やっています！（今のところ）ホームスクールの扉は「普通のサラリーマン家庭」に開かれています。（少なくとも我が家は…）

1. ホームスクールへの導き
2. 普通の会社員家庭のホームスクール現状

我が家の日常生活の様子を共有させていただきます。（聖書の時間、お手伝い、勉強、課外授業、いいことメモ&もうちょっとメモ、制限時間を設けて親と遊ぶ、夫婦の時間、真理子1人の時間など）

3. スパンクは虐待か？

スパンクは虐待でしょうか？世間やクリスチャンからの風当たりがさらに厳しくなる中、スパンクの聖書からの定義や意義を確認します。ぬいぐるみを使い我が家での実践方法の実演や注意点などを共有させていただきます。

■「数えてみよ 主の恵み」 上原 知子

3人兄妹の末娘誕生と共に始まった我が家のホームスクールも17年目に突入し、今や母親としての手綱はかなり緩くなり心に余裕が与えられた今、これまでの歩みをふり返り、悟った事や恵みの数々をシェアします。私たちが不忠実でも主は常に忠実なお方であることを賛美します！質問大歓迎(^^)・なぜホームスクール？・求めよ、さらば与えられん・今時学校事情・信じて待ち望む・

マラウイへのミッショントリップに行った長女からのレポートなど。

■「創造を学ぶことの意義」 宇佐神 実

創造主は聖書を通して真の歴史を私たちに教えています。そしてこの歴史を信じることは、私たちの信仰の土台を築く上で非常に重要です。それは、私たちの世界観・人間観を形成するからです。また、創世記1-11章の歴史を通して、救いが必要な理由、現在の地球の状態、新天新地の必要性を説明することができます。また被造物がいかによばらしく造られたかも考えることができます。講義を通して子どもたちに聖書の歴史をきちんと教える助けとなるでしょう。

■「進化か創造か」 宇佐神 実

日本では、進化論が徹底的に教えられていて、多くの人が進化論は事実だと信じていますが、著名な科学者たちは、進化論が証明できず根拠に乏しいことを知っています。この講義を通して、生物学、地質学などの証拠を見、私たちが創造された世界に住んでいることを確信しましょう。また、子どもたちにもその確信をもって創造された世界であることを伝えましょう。

■「命あるうちに」 鍵谷 徹也 & 陽子

（徹也）「神である主の御顔を避けて園の木の間」に身を隠した。創世記3:8」罪深い自分の姿から目を背ける度、罪の重さがぼやけ、許された恵みの大きさを見失う…そんな負のスパイラルから主は、幾度救い出してくださったことでしょう。

（陽子）愛する父が、主の御元に召されました。想像を絶する闘病を通して受けたのは、主の深い憐れみと、くすしい御業。この世の幸いとは、かけ離れた状態にあっても、御国の希望と喜びに満ち足りる事ができる…キリスト信者とは、なんと幸いな者でしょう！

今日は恵みの日。愛する自由を放棄したり、後回しにしてはいただけません。ホームスクーリングは、愛し、伝える幸いに満ち、自分を捨て、新し

くされるチャンスに富んでいます。諦めない我が家、いえ、諦めなさらぬ主の御恵みをお分かちします。

■「実よりもまず根っこ」 川嶋 しのぶ

ホームスクーリング開始から12年が経ちました。開始当初の caos、夫の単身赴任時期も経験し、ひとりで背負い込み、とにかく勉強が遅れないようにと焦る母親でした。小学生、中学生、高校生時代で直面したそれぞれの課題と、神さまの備えや祝福を分かち合います。「それなら私にもホームスクールできるかも。」と思って、1家族でも踏み出す決心をしてくれたら幸いです。目に見える実が実るためには、まず根っこがしっかり張ってなければ、という意味がやっと最近分かり始めました。高2の末っ子長男の証タイム付き。

■「みことばに生きる」 菅野 律哉&幸

私たちの教会では、「私たちの父アブラハム」という本をテキストにして、定期的に子育ての学びをしています。聖書を日常生活の土台とするユダヤ人社会の視点から子育ての仕方を学ぶことは、大きな発見の連続です。学びと実践を繰り返す中で、いつの間にか取り込まれている世の中の教育観を取り除き、みことばに基づく教育に軌道修正することを常に教えられています。試行錯誤の毎日の証と共に、子どもたちをみことばで教育することについて、私たちが教えられたことをお分かちしたいと思います。

■「イスラエル宣教に若者を送り出す試み」 木谷 直也&尚美

①イスラエルの現状 ②メシアニック・ジュー(イエスを信じるユダヤ人)の現状 ③異邦人教会としての役割 ④日本の若者をイスラエル宣教に送り出す手立て ⑤メシアニック・ジューと日本人クリスチャンの若者の交流について ⑥メシアニック・ジューと異邦人教会の若者たちによる One New Man の働きを見据えて

以上の項目について、ホームスクールで育ててきた娘ゆりか(18)と共に、実際にどのような活動を始めているかについて報告します。

■「日々支えられている言葉」

衣笠 健三&葉子

乳児期から青年期まで7人の子どもたちのHSを続ける中で、支えられている言葉を紹介します。チアのコンベンションや白馬で講師の先生方から語られた言葉もあれば、何気なく手に取った冊子に書かれていた言葉なんかもあります。我が家のHSの指針のようにになっている言葉もあれば、ふとした時に思い出して励まされたり、疲れ切った時にホッと慰めてくれたりする言葉もあります。いくつ紹介できるか分かりませんが、ゆりとお分かちしたいと思います。(前回の分科会の続きではありませんが、波乱万丈HS家族の近況も少しお話しする予定です！)

■オンラインサポート『パートナー』のご紹介 ギンター 千為子

『パートナー』は、ホームスクーラーのご家族を継続的に支援し、励まし、助けることを目的としています。1. 保護者コース…カリキュラム作成 & フォローアップ 2. 小学生学習サポート 3. 習字コース

この分科会では、各コースの大まかな流れと教材や学習の進め方についてご説明させていただきます。ホームスクーラーの皆様の良き理解者・協力者・助け手として、愛と祈りをもって、精一杯お仕えしたいと思っています。あなたのホームスクーリングライフをより豊かに…。体験者の声もお届け予定です。

■「それでもなぜホームスクーリングをするのか？」 高倉 新喜&聡子

私たちは多くのホームスクーリング・ファミリーの素晴らしい証しに感銘してホームスクーリングを始めましたが、実際には理想どおりにはいきません。本当に子どもが霊的クリスチャンに成長

して伝道者として世に出ていけるのか？将来の進路はどうなるのか？などなど不安は尽きません。しかし、それでもホームスクーリングをやめることはできません。それは神様の私たちに対する命令だからです。常に「それでもなぜホームスクーリングをするのか？」との問いかけに向き合い、聖書のみことばに立ち返りつつホームスクーリングの確信を強めています。

■「育つ側のチャレンジ」 高原 主悦

子どもたちは身体的にも精神的にも成長の真っ最中です。だからこそ、子どもの特性・しんどさに対しては、今だけでなく、“これまでの心の成長の流れ（＝精神発達）”という視点で捉えていくことが大切です。この回では、子どもの精神発達について基本的な構造を捉えながら、いわゆる発達障害とは何なのか、どのような成長をたどるのか、カウンセラーとしての証しも交えて、一緒に考えていけたらと思います。

■「育てる側のチャレンジ」 高原 主悦

子どもは「社会の鏡」と言われます。実際に今年、10代前半死因1位が自殺になったことが記事となり、社会で問題となっていることが鋭く反映されることを象徴するようなニュースでした。育てる側に大きなチャレンジが突き付けられている時代だからこそ、神様が造られた“家族”というシステムに改めて目を留めたいと思います。この回では、時代の流れが家族にどのような影響を与えてきたのかを踏まえつつ、神様が用意されている家族の祝福について一緒に考えていけたらと思います。

■～高認・大学受験を控える子どものためにできること～ 棚田 伊作&加代子

手探り状態で行ってきたホームスクーリングですが、「主の弟子として育てる」ことを目標に、現在も親子共々学んでいる真っ最中です。気が付けば、主が整えられた道を歩まされて早11年が経ちました。親である私たちが、高認、大学受験とい

う一つの節目を迎えるという子どもたちと、どのように関わってきたかを分かち合いたいと思います。

■子どもを祝福する「ゆるっとホームセラピー」 辻 奈央子

特性のある子どもの子育てには悩みがつきものです。その中で、チア・にっぽんを通して出会ったジョイス・イノウエさんから教えていただいた「祝福」のメッセージが我が家のホームセラピーの土台となりました。不定型発達児の親だったからこそ受けた神様からのメッセージ、与えられた品性、そして母として、セラピストとしての歩みを証しと少しのコツを交えてお話いたします。

■「我が家のホームスクーリング」 南雲 信幸&恵理子

神様は子どもたちを1人1人ユニークな存在としてこの世に送り出して下さいます。要領の良い子、優れた運動神経の子、頭の回転の速い子、時間は掛かるけどじっくりと物事に取り組む子、作家のように想像力豊かな子、人とは違った独創的な感性の子等、人それぞれです。そのような中で、手の掛かる子、発達がゆっくりな子もいます。それらの子には適切な言葉掛けや配慮、何よりも愛されていること、自分の存在意義を保証してくれる、そのような働き掛けが必要です。理解が無い場合、疎外感を受けて粗暴な行動に出たり、乱暴な言葉遣いをしたり、協調性の無い行動をしたりします。しかし、それらの子たちにも言い分はあるのです。愛されたいし、分かって欲しいし、仲良くしたいのです。そのような子どもに対しどのように接していけば良いのか、我が家の事例紹介と皆さんからも実践方法を紹介して頂き、分かち合いと情報共有の場に出ればと考えております。

■那須家のホームスクーリング 15年で 修了・終了！？－感謝感激雨霞－ 那須 清志&百合美

2004年4月より始まったホームスクーリング

も15年間で修了。長男(27歳)はビジネスマン3年め、長女(25歳)は看護師5年を経て現在助産師学校学生、次女(23歳)はビジネスウーマン2年目、次男(21歳)は大学3回生、三女(19歳)は看護学生2年生。というわけで、子どもたちはみな家を港に、訓練・学びの大海で航行中です。15年間、ホームという同じ環境で学びつつも、教会や社会との関わりの中で多くのことを教えられてきました。これからは本格的に主からのお取り扱いを受け、主にある成人を目指して進むことを願うばかり。これまでの振り返り、感謝、思い出、反省、後悔等々、そしてこれから…。

■ 従順な道に潜む問題－ホームスクールの子どもたちが信仰を維持できないとき

ピーター・ブロックソム

ホームスクールの子どもたちの中にも、クリスチャンであることをやめてしまう子がいます。私自身、クリスチャンホームで育ち、子どもたちをホームスクールで育て、またKIUにおいて牧師、宣教師の方々のお子さんを多く教えてきましたが、その中でキリストによる救いの扉をたたきながら、後に主の道から離れていってしまう子どもたちを見てきました。なぜ、このようなことが起こるのでしょうか？

クリスチャンホームにおいては、キリストにある信仰を選ぶことが、子どもにとって最も易しい道であるという勘違いが起こりがちです。そこでは、子どもたちが非聖書的な思いや考えの故に非難されるということがしばしば起こります。「クリスチャン」であることは、子どもたちにとって最も抵抗を受けることが少ない道となるのです。しかしそのような信仰は、この世の迫害の中であって、子どもたちを強く立たせてくれるものではありません。今回の講演では、このような悲劇から子どもたちを守るために、保護者として私たちに何ができるのかを考えていきます。

■ 16年目に思うこと

藤原 樹里

ホームスクールも16年目、無我夢中で過ぎましたが、昨年からは娘が聖書学校に留学、息子と2人

で勉強する静かな生活になりました。2年後には主人の定年退職を控え、子どもと学ぶ日々も後4年程かと思うと感慨深いものがあります。今、振り返ってみると、初めての経験で、親も肩に力が入り、理想を目指して無理をしたり、逆に世的な価値観に影響されて焦ったり、たくさん失敗もあったと思います。でも、そういった失敗を修復して余りある、神様の恵みの大きさを思います。わが家の歩みと、注がれた神様の恵みをお分かちできたらと思います。

■ ホームスクーリングに召し出された恵みと知恵 渡辺 健&まゆみ

イエス様なしの子育ては、羅針盤のない船で、行き先の定まらない旅をするようなものではないでしょうか？そして、初経験のホームスクーリングに召された私たちには、なおさら主の羅針盤が必要です。能力も技術もない私たち家族がどのようにして船出をしたのか、そしてその旅の途中であったチャレンジや恵み、楽しくホームスクーリングをする上で役に立った知恵(コツ)をみなさんに分かち合いたいと思います。

* 吉村忠敏&則子様の方科会は今回ありません。
どうぞご了承くださいませ。